

話題満載

青菜栽培研究会

南部発！

安心・安全 冬期軟弱野菜

2月8日 県が主催する「食のやまなし地産地消推進大会」で青菜栽培研究会（佐野長治郎会長・万沢）が優良事例表彰を受けました。

これは、県内で創意工夫を凝らして地産地消に取組み、その活動が広く他の模範であると認められた団体を表彰するもので、この度の青菜栽培研究会は、軟弱野菜の契約販売、環境保全型農業への取組み等が高く評価されたものです。おめでとうございます。



青菜栽培研究会会長 佐野長次郎(さの ちようじろう)さん
S14年2月27日生まれ。万沢1384番地。H7年に退職後、3年間の研究を経て、H10年に研究会を発足、会長となる。H13年には認定農業者となる。趣味はバラ栽培。特にこの時期は、家に居ればほとんど畑に出ると言う。興味のある方は連絡を ☎67-3631(佐野会長宅)へ

「青菜栽培研究会」は、平成10年に富沢地区の有志で組織され、冬期の軟弱野菜（ほうれん草、小松菜、青梗菜、春菊等）を無農薬減化学肥料（化学肥料5割削減）で栽培し、県内大手スーパーと契約して出荷を行っている。現在会員は10名、全員がエコファーマーの認定を受けていて、「甲斐のこだわり環境農産物」の認証を受ける等、環境保全型農業への確立を図っている。

佐野会長は「求められる量を安定的に出荷するのは難しい大変だ。だからこそ収入もあり、やりがいがある。」と話す。運送コストが掛か

るため、1回250kg〜350kgの出荷を、現在週2回にしている。スーパーでの売れ行きも、健康ブームにより上々のこと。しかし、会員10名のうち実働は4名。「会員の募集・育成、運送経路の確保がこれからの課題。」「立ち寄ったスーパーで、残りわずかになった富沢産ほうれん草を見て、力がわいてくる。」と言う。

食の安全・安心を守る佐野会長は、お話を聞いている間も、ずっと圃場のほうれん草に優しい視線を注ぐ。そんな会長は、この日も収穫に忙しかった。

「道の駅とみざわ」

改修終了

観光拠点 新装オープン

2月1日 「道の駅とみざわ」の改修工事が終了し、明るくなった施設で営業を開始しました。

今回の改修では、外観に大きな変更は見られないものの、内装は一転、食堂からショップまで近代的で明るく開放的に仕上がりました。特に食堂は、座席数が倍以上となり町内外・遠方からのお客様の食事処・休息の場として、また「憩いの場」として、町のシンボルの施設がより清潔感あふれるものに生まれ変わりました。



明るくなった店内

文化講演会

笑って 長寿
しゃべって 健康



はいっ パー

2月10日 南部町文化協会主催の「文化講演会」が文化ホールで行われました。

講演会では、片平文化協会会長が「健康に一番よいのは笑う事。今日は、腹から笑ってストレス解消をしましょう。」とあいさつをし、続いておなじみの落語家三笑亭夢之助師匠に「健康は笑いから」と題して、長寿の秘訣・健康、さらには認知症にまで踏み込んだお話をいただきました。夢之助師匠は「認知症予防には『おしゃべり』がとても大切。楽しい『会話』で笑う事が、心の栄養になる。」等、落語をあり交ぜた健康の話で、とても楽しく有意義な講演会になりました。

竣工記念音楽会

明るくなって笑顔も映える

2月17日 睦合小学校で体育館の竣工を記念した「音楽を楽しむ会」が行われました。

当日は、昨年12月に完成したばかりの広々と明るい体育館で、児童がこの日のために練習してきた合唱・合奏を披露しました。体育館に集まった大勢の保護者も、児童達の元気いっばいのかわいい歌声、美しいハーモニーに合わせてリズムを取りながら聞き入っていました。また、発表が終わるたびにビデオ・カメラの撮影の手を止めて、大きな拍手を送っていました。



デカイくちで唱ってる

お菓子作り教室

楽しく美味しくできた



ニョロニョロっとな

1月27日・2月3日 小学生お菓子作り教室が活性化センター・総合会館それぞれの会場で行われました。

富沢・南部地区に別れて行われた教室の参加者は22名で、両教室ともチョコシュークリーム・苺だいふくに挑戦しました。調理では講師の説明に耳を傾けながら悪戦苦闘。オープンに入れたシュークリームがなかなか膨らまず、見守る子供たちの心配そうな表情が印象的でした。完成後の試食では、みんな美味しく頂いたものの、ちよっぴりチョコ味が苦く感じる教室だったかな？

三世代交流会

知識経験
やっぱり
かなわな



黙々と働くおばあちゃん

2月17日 三世代交流会が富河小学校で行われました。

当日は児童・父母・祖父母が協力して、学年ごとにつごん・そば作り等、調理から遊びまで昔から行われる作り方・遊び方を体験しました。6年生は「餅つき」。臼・杵を使って餅をつき、50kgの餅米が全て真っ白いツルツルの餅になりました。何をやっても手際の良いおばあちゃんに、父母までもが驚かされました。最後に出来上がったきな粉餅・豆餅等をみんなで試食したり、おばあちゃんの昔話を聞いたり楽しく・美味しい交流会になりました。

楮根に水墨画ギャラリー

町産材でつつまれる
温もりの画

2月17日 身延町在住の水墨画家望月勅雄（もちづきときお）さんのギャラリー「墨酔（ぼくすい）」が完成し、開館式が行われました。



すばらしいすばらしいの連発

写真（左）娘 若林卓子さん
（中央） 望月勅雄さん
（右）娘婿 若林一明さん

望月勅雄

昭和5年生まれ。身延町在住。

平成3年から水墨画を始める。現在、国際書画連盟理事で山梨化学学園墨絵講師。南部町内にも多数生徒さんがいる。昨年水墨画作品集「墨絵が語るふるさと」を出版している。

スキー教室

きこいこー私ぎょけー



もっと視線は前!

2月18日 教育委員会・体育協会主催の「スキー教室」が長野県のスキー場で行われました。

当日は、参加者163人が大型バス5台に分乗し、冬の代表的スポーツに挑みました。早朝出発で眠そうなお親、はしゃぎ廻る子供たち。参加者は親子連れから仲良しグループまで様々、車中でもとても楽しんでいました。ゲレンデでは、初心・初級教室が希望者20人で行われ、受講者は基礎からしっかりと学びました。恐る恐る滑り出す子供達の真剣なまなざしが印象的でした。また、どの参加者も時間までゆっくりとスキーやスノーボードを楽しむことが出来、みんな大満足の日となりました。



高橋竹童

本名山田毅。昭和45年新潟県生まれ。高橋竹栄を師事して津軽三味線を本格的に始める。現在、焼津に活動拠点を構えて活動中。

当日は関係者が出席する中、南部町楮根在住の若林卓子さん（実子）が司会を務めて式が行われ、町内の水墨画教室受講生を代表して稲葉くらさんが「先生のおかげで、自然の移ろいを敏感に感じ取れるようになりました。小さな草花に愛をそそげる様になりました。」と水墨画の素晴らしさを含めてお祝いのあいさつをしました。

また、柿落としの津軽三味線奏者高橋竹童さんによる軽快な演奏が花を添えました。

このギャラリーは、南部町産の杉で作られた趣のある建物で、勅雄さんの制作活動の拠点、常設展示場、水墨画教室等で、地域文化の交流の場として活用していくそうです。